

令和1年度（平成31年度） 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

[1] 建学の理念に基づく学校づくり

- (1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティーを確立し、学校目標として再定義する。
- (2) 建学の理念及び本校教育方針を生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。

[2] コースの充実

- (1) ここ数年来検討し、明確になりつつあるコースのコンセプト及びコース目標を基に、コース委員会を中心に、次期学習指導要領改訂を見据えて教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報していく。
- (2) グローバル商大コースでは、低学力者への対応、また、進路意識が高い生徒への進学対策などを実施し、多様な進路を保証できるように取り組む。
- (3) 文理進学コースでは、放課後授業、学期末授業、二次補習などを通して、学力向上・進路目標達成を図るとともに、コースにいることの意識付けの強化や自己実現に向かうプロセスの説明などで不適応を少なくする。また、高大接続改革に向けた取り組みを開始する。新2年生での国公立型・私大型、文系・理系の選択群の円滑な実施を行う。
- (4) デザイン美術コースは充実した芸術教室を効果的に利用する。また、国公立大学合格を視野に入れた進路対策を実施し、専願受験希望者増に繋がる施策とする。
- (5) スポーツ専修コースは、スポーツ演習の内容を精選し継続実施するとともに、クラブ活動時間の問題や指導者の勤務等の検討を開始する。カリキュラム改訂を見据えて、総合的な学習、スポーツ演習の総合的な見直しを行う。また、柔道部など女子生徒数の増加のための方策を具体化する。

2. 中間的目標

□学習指導構想

[1] 生徒の学習状況の把握と対応

- (1) 各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、次の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。
- (2) 学力不振者が年度末に成績不振により転退学をするケースがある。入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を実施する。
- (3) 学習指導要領改訂に向け、新カリキュラムを検討し、確定する。

[2] 教科教育活動の充実

- (1) 授業内容の精選と自習時間を減らし、一時間一時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。
- (2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。
- (3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、適切に対応する。

□生活指導構想

[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成

- (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。
- (2) 教職員全員で、生活指導を行うという意識を徹底する。
- (3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。
- (4) 改訂した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。
- (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。
- (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教室など社会人としてのマナーを養う講座を行う。

[2] 帰属意識の高揚

- (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。
- (2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る
- (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。
- (4) 北海道修学旅行を、第1回の総括を基に、必要があればプログラムの内容を考慮し、より充実したものとする。

[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善

- (1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別教育支援コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを行う。大阪府私立学校中学高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座へは、引き続き教員を派遣する。
- (2) カウンセラーによる支援およびサポートルームによる対応を継続して実施する。一方で、これを運営する体制・システムを見直し、不登校と認定された生徒が教室へ戻れるよう支援する。
- (3) 教職員が、発達障害を抱える生徒に対して理解を深め、指導できる体制を構築する。

□進路指導構想

[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上

- (1) 三年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に一年次を大切に、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。
- (2) 高大接続改革に対する対応を強化する。特に導入したポートフォリオなどの運用について、指導法等をまとめていく。
- (3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。
- (4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。

[2] 系列大学との連携強化

- (1) 1年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3年間を通じて計画的な進路指導を行う。
- (2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等での連携強化を図る。
- (3) 3年生対象に大阪商業大学での高大接続授業を実施する。新学習指導要領に伴うカリキュラム改編に向けて、継続の是非を検討する。

□入試・渉外構想

[1] 広報活動の強化

- (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
- (3) 中学校への出前授業は継続して、積極的に引き受ける。
- (4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。
- (5) 学校案内(パンフレット)の業者を再選択した年度にあたるので、連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。
- (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容を充実する。
- (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。

[2] 専願受験者の確保

- (1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。
- (2) スポーツ専修コース2クラス70名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。
- (3) 平成29年度に見直した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
- (4) 競合する他校に対して最もディスアドバンテージとなっている施設・設備面の改善と、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。

[3] 女子生徒の確保

- (1) 志願者の40%、入学者の33%を目標に取り組む。
- (2) 明るいイメージの校舎、美しく充実したトイレや食堂など女子生徒に魅力的な学校を目指して改善すべき点を見出すとともに、改善に向けて努力していく。
- (3) 女子生徒に魅力あるクラブの増設を考え実行する。特に運動クラブの増設については施設面や指導者の確保の問題を考慮しつつ、喫緊の課題として検討し遂行する。女子柔道部については需要があり、最優先に考えていく。

□教員の研究・研修構想

[1] 教員の教育力向上

- (1) 教員を指名しての公開授業(研究授業)を年次進行で継続実施する。
- (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。
- (3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。
- (4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする
- (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。

[2] 教員組織の活性化

- (1) 教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織へ改革する。特に年度当初に講師説明会を実施し、時間講師の先生方も同じスタンスで指導してもらうよう要請する。
- (2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。

[3] 変革する教育への対応

- (1) 令和4年度から年次進行で実施される次期学習指導要領について、教務部を中心にカリキュラムを検討し、確定する。
- (2) 進路指導部を中心に、大学入試センター試験にかわる「大学入学共通テスト」(令和2年度実施予定)についての研究を行い、これを含めた高大接続改革に対する対応策を検討する。
- (3) ICT教育、アクティブラーニング、英語の4技能など新しい教育の方法論について、学び教科教育として取り入れていく。
- (4) 発達障害や不登校生について生徒理解を深めていくとともに、セルフエスティームを上げる、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。
- (5) クラブ指導の在り方について、学校方針(学校長方針)を出せるよう検討する。

□その他

[1] 保護者との連携強化

- (1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。
- (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年2回、クラスで三者面談を実施したり、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見てもう機会とする。
- (3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。
- (4) コース費用などの見直しを行い、保護者負担の軽減を図る。

[2] 地域との連携

- (1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。
- (2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。
- (3) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

- (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。
- (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和1年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 男 76% 女 68%、保護者 88%、教員 71%) 参考) 昨年度 (65) (68) (85) (80)</p> <p>○「自分のクラスが楽しい」 肯定的回答(生徒 男 90% 女 82%、保護者 82%、教員 83%) 参考) 昨年度 (83) (84) (80) (87)</p> <p>【分析】 「学校の雰囲気について」の質問に対して、大人（保護者・教員）は約80%が肯定的な回答であるが、生徒、特に女子生徒の3割以上が否定的な数値となっている。男子生徒では数値が昨年と比べて肯定的意見が増加している。共学化以来、女子生徒が過ごしやすい環境作りは課題となっており、検証する必要がある。 「あいさつに溢れる学校」については、生徒・保護者・教職員すべて肯定的意見が多くを占めるようになった。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣が、定着していると評価できる。あいさつは習慣的なものであるため、現状に満足するのではなく、決して強制ではなく、大人（教職員）から挨拶励行を継続することが重要である。 学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、各学年ともに85%以上が肯定的な回答が出されていることは評価できる。クラスの雰囲気が学校行事だけでなく、日々の学習活動や知識の定着化につながるといっても過言ではない。今後も生徒たちと学級担任のともにクラス活動を豊かなものにする努力を行っていくことが必要である。 「コースの取り組み」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、教職員は否定的数値が高くなっている。ただ何となく、各コースで用意されたカリキュラムを消化していくのではなく、コースのコンセプト、到達目標を今一度明確にして、またそのカリキュラムや、各コースの特長的なプログラムを通じて、自らの将来像、可能性を探求させることにより、双方の肯定的回答が増加するのではないかとと思われる。 「資格取得の多様性」は生徒、保護者、教職員ともに肯定的数値が多く出ている。しかし、各種検定の合格率は必ずしも上昇しているとは言えないのが現状である。各種検定への合格率の向上が、さらに肯定的なベクトルとなっていく。資格取得をメインに掲げているグローバル商大コースの充実にも繋がる項目であるため、教科のみでなく、学校全体で考え、盛り上げていくことが急務である。また1年次から目標を設定し継続的にモチベーションを持たせることも必要である。「教員の教育熱心」については、生徒からは80%程度の肯定的な回答が出ているが、保護者の意見としては30%以上が否定的な意見と厳しい結果になっている。教科指導、生活指導、進路指導、課外活動指導等、様々な局面があるが、総合的に情熱をもって接していくことが必要である。</p>	<p>*新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月7日（土）に実施予定であった「学校評価委員会会議」は中止となりました。</p> <p>参加予定の各委員の方々に文章にて内容確認を致しましたが、特に意見が出されることはありませんでした。</p>
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 男 76% 女 68%、保護者 78%、教員 70%) 参考) 昨年度 (68) (70) (70) (87)</p> <p>○「(生徒は)意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 男 82% 女 78%、保護者 72%、教員 43%) 参考) 昨年度 (71) (75) (73) (36)</p> <p>【分析】 「授業のわかりやすさ」について、生徒の否定的回答が学年間で差があり、第2学年では35%が否定的な回答となっている。また生徒男女間でも若干の差が見られ、男子生徒の否定的意見が24%である一方、女子生徒の否定的意見は30%を超えている。学年間、男女間の差については今後検証していく必要があるが、授業が学習活動の根幹であるがゆえに、3割近くが否定的数値であること自体が問題である。生徒の9割以上が肯定的回答を目指すべく、公開授業や授業アンケートを有効活用し、教授法を高めていくことは勿論のこと、教科内での勉強会など校内での授業充実の気運を高めていくことも必要である。その他大学共通テスト等への対応を行い、また生徒参加型の授業形態を取り入れていくなど、工夫が望まれる。 「授業への意欲的な取り組み」は例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。特に3年生の2学期以降の授業へのモチベーションの低下が大きな原因となっていると思われる。1～2年生においても検定期や定期試験前だけでなく、継続した授業への積極的意欲的参加が、知識の向上につながることを訴え、3カ年で学力的な成長を目標にすることが必要である。生徒の授業に対するモチベーションの向上への仕掛けは教員の工夫が一番有効である。生徒たちが学習の楽しさ、知識をつけることの充実感など、生徒の気付きを教員側が行っていくことが必要である。</p>	
<p>□進路指導に関して</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 60%、保護者 83%、教員 79%) 参考) 昨年度 (81) (72) (80) (71)</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 男 80% 女 74%、保護者 82%、教員 59%) 参考) 昨年度 (77) (74) (78) (53)</p> <p>【分析】 「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は肯定的なものが中心ではあるが、教員の回答は否定的なものが多い。進路の可否だけでなく、真の学力をつけられたかどうか検証していく必要がある。そのために模試・学力テストなどのデータ分析、そしてそのデータの共有、改善策の検討、実施というサイクルが常に必要である。それらの作業が充実すれば、生徒・教員双方ともに肯定的回答が増加すると思われる。特に昨年度からの大学の定員厳格化の影響でより細やかなデータが必要となる。文理進学コースだけでなく、学校全体での取り組みが今後必要である。「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。今年度は(延期になったが)大学入試改革や英語民間テストの件についても生徒・保護者に情報を分析、確認し提供した。今後もシステムが急に変更になることも考えられるので、引き続き正確な情報をタイムリーに提供する必要がある。</p>	

自己評価アンケートの結果と分析[令和1年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□生活指導</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 男 72% 女 70%、保護者 91%、教員 79%) 参考) 昨年度 (68) (63) (89) (79)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 男 95% 女 88%、保護者 80%、教員 36%) 参考) 昨年度 (81) (79) (94) (43)</p> <p>○「生活指導について納得度」 肯定的回答(生徒 男 71% 女 58%、保護者 73%、教員 57%) 参考) 昨年度 (66) (54) (86) (59)</p> <p>【分析】 「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者(生徒・保護者・教員)ともに昨年度と比較して、肯定的回答が大部分を占めた。特に3年生は80%以上が肯定的回答となっている。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、生徒の否定的回答が30%以上となり、特に2年生では50%を超えている。入学時と2年進級時に異なるスマホ・ケイタイのルールとなり、混乱があったことも要因と思われる。次年度はまたスマホ・ケイタイのルール変更があるので、丁寧に校則遵守を訴えることが必要である。「生徒が規則を守っている」は例年と同じく、生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。多くの生徒が校則を守っているが、一部の校則を守っていない生徒に対する指導に多くの労力を費やしていることと、規則の解釈の差異もあるかもしれない。「生徒は生活指導に納得している」に関しては、全生徒では35%程度が否定的にとらえているが、この項目についても2年生の48%が否定的回答と顕著に表れている。規則の妥当性の項目で前述したように、スマホ・ケイタイのルール変更も要因の一つではないだろうか。『指導する』側(教員)と『指導される』側(生徒)の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくために、なぜ校則があるのか、校則を遵守することがなぜ大切なのかを繰り返し説いていくことが必要である。「ベル着を守っている」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答であるが、その一方教員は否定的な回答がまだ多い。生徒は授業開始のベルが鳴った際には教室内にいることをベル着ととらえている傾向にあり、その反面教員はベルと同時に授業を開始するという意味でとらえているギャップがあると考えられる。生徒・教員ともに「50分間しっかり授業を行う(受ける)」「授業第一」の意識を共有することが基本である。</p>	<p>学校評価委員会からの意見</p> <p>*新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月7日(土)に実施予定であった「学校評価委員会会議」は中止となりました。</p> <p>参加予定の各委員の方々に文章にて内容確認を致しましたが、特に意見が出されることはありませんでした。</p>
<p>□設備について</p> <p>○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 男 57% 女 48%、保護者 73%、教員 34%) 参考) 昨年度 (43) (47) (70) (28)</p> <p>【分析】 「校内施設設備」については、昨年度と比べ、僅かであるが、肯定的な数値が上昇したと判断できる。トイレのリフォームなど校内美化が計画的に進められている。それに対する評価と考えられる。また現存の施設の有効的使用および生徒の美化意識向上に努めることも併せて必要である。</p>	
<p>□その他</p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 男 75% 女 66%、保護者 78%、教員 77%) 参考) 昨年度 (67) (69) (73) (68)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 男 81% 女 80%、保護者 80%、教員 84%) 参考) 昨年度 (70) (75) (78) (83)</p> <p>○「あいさつの溢れる学校である」 肯定的回答(生徒 男 86% 女 76%、保護者 89%、教員 75%) 参考) 昨年度 (75) (72) (75) (61)</p> <p>○「入学して(させて)よかった」 肯定的回答(生徒 男 77% 女 69%、保護者 80%、教員 62%) 参考) 昨年度 (60) (66) (86) (75)</p> <p>【分析】 「学校行事」「部活動」について、肯定的回答が多数を占めているが、学校行事については、2年生の40%近く、女子生徒の30%以上が、否定的な回答となっている。部活動も含めて、女子生徒が主体的に活動できるような環境整備が肯定的結果へとつながっていくのではないかとと思われる。有意義な高校生活を過ごしていくために大事な要素であるので、生徒自治会を中心に取り組んでいく。 「入学して(させて)よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めているが、教職員の40%近くが否定的な回答をしている。要因については早急に分析する必要があるが、教職員側の描いている到達度と生徒たちの到達度が乖離しているのではないかと考えられる。今後も最終学年の第3学年に向けて数値が向上するよう目指し、生徒、保護者の満足度が高まるポイントは何であるのか検証し、それに向けて実践していくことが必要である。また本校の募集活動にもリンクしていくことになるので、全教員で取り組んでいく。</p>	

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 学習指導構想	<p>[1] 生徒の学習状況の把握と対応</p> <p>(1) 各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、次の授業に反映する。一年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。</p> <p>(2) 学力不振者が年度末に成績不振により転退学をするケースがある。入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を実施する。</p> <p>(3) 学習指導要領改訂に向け、新カリキュラムを検討し、確定する。</p> <p>[2] 教科教育活動の充実</p> <p>(1) 授業内容の精選と自習時間を減らし、一時間一時間の授業を大切にす姿勢を教員・生徒ともに養う。</p> <p>(2) グローバル商大コースを中心に実用英語検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導体制を維持し、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。</p> <p>(3) 学習指導要領改訂に伴う先行実施分について、適切に対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科定期試験などのデータ分析 ・学力不振者への学期末補習実施 ・学力テスト業者の変更 (e-ポートフォリオとのリンク) ・学力テストデータを基にしたリメディアル教育の実施 ・新カリキュラムの検討 ・ベル即授業→50 分間授業提供の徹底 ・各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み ・総合的な学習担当教務部副部長が年間計画および調整を行った 	各教科定期試験データ分析を教務部中心に行う。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようした	○	
			学力不振者に対して、入学前リメディアル教育および各学期末に欠点者補習を行った。	◎	
			e-ポートフォリオとリンクができる学力テスト業者の変更を行い、有効に活用している	○	
			新カリキュラムの検討を教務部中心に実施。各コース、各教科との意見交換を重ねながら、提案準備を進めている	◎	
			ベル着の習慣は概ね確立されてきている (生徒アンケート調査の結果 93%が「ベル着を守っている」との回答)	○	
			◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆		
			英検準2級→受験者数の60%合格	・英検準2級合格→合格 40 名 <受検 377 名>---合格率 11%(昨年 12%) *2級合格者 22 名となり昨年度の 33 名より大幅に減となった	×
			全商簿記検定 2 級→受験者数の50%合格	・全商簿記検定2級 →合格 47 名<受検 221 名> ---合格率 21.3%(昨年 23.2%) 昨年度より合格率が微減した	×
			ICT プロフィシエンシー検定(P 検)の受検→3級合格	・P 検→3級合格 59 名<受検数 92 名> ---合格率 64%(昨年 88%) *準2級合格者 50 名、合格率 49%(昨年比微減) *全商情処理検定 3 級合格者 23 名、昨年の 46 名より大幅に減となった	×
			※各検定、残念ながら目標値を下回り、また昨年度よりも合格数も減少した。グローバル商大コースを中心に学校全体としての取り組みが必要である		
各コース、各学年の総合的な学習のシラバスを教務部で作成、教室使用場所等の調整も含めて、円滑に授業を行うことができた			◎		

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下	
□ 生活 指導 構 想	[1]基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成 (1) 理想とする「生徒像」を、行事、集会など機会がある毎に、生徒に伝え指導し続ける。つまり問題事象の発生を未然に防ぐ「予防的な指導」を目指す。 (2) 教職員全員で、生徒指導を行うという意識を徹底する。 (3) 校則遵守を徹底し、頭髪、服装などの違反ゼロを目指す。生活指導週間を有効に活用する。 (4) 改訂した目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。 (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。 (6) 交通安全指導や性教育、薬物乱用など危機管理につながる講座や携帯電話使用やスマホ依存教室など社会人としてのマナーを養う講座を行う。 [2] 帰属意識の高揚 (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を、生徒の企画・運営で実施し、活性化する。 (2) 学年や自治会活動を中心にHR活動の充実を図る (3) クラブ活動の充実を図るため、生徒自治会を中心にクラブ入部率を高める活動を行うとともに、校外での練習場所の確保、施設設備の改善、これに必要な予算措置など支援する方策を実施する。 (4) 北海道修学旅行を、第1回の総括を基に、必要があればプログラムの内容を考慮し、より充実したものとする。 [3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善 (1) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別教育支援コーディネーターを任命し、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを行う。大阪府私立学校中学高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座へは、引き続き教員を派遣する。 (2) カウンセラーによる支援およびサポートルームによる対応を継続して実施する。一方で、これを運営する体制・システムを見直し、不登校と認定された生徒が教室へ戻れるよう支援する。 (3) 教職員が、発達障害を抱える生徒に対して理解を深め、指導できる体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒スケジュール帳「商大手帳」を用いた自己管理 ・学年集会、コース集会などの定例化 ・ぶれない、生徒の心に響く生活指導 ・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導 ・年間遅刻数目標を5000→3500以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行った ・生徒対象マナーや性教育などの講座の開催 ・スマホのマナー(歩きスマホ、音だし等)に対して指導を行った。また次年度のスマホに関する校則変更の啓発活動を行った。 ・生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み ・年間HRの計画 ・第2回目となる北海道修学旅行実施に向けて、該当学年の修学旅行委員(教員)を中心に立案、準備を進めた。 私立学校中学高等学校連合会主催のコーディネーター養成講座1名受講 不登校生徒に関する内規の変更準備	生徒スケジュール帳の利用(自己管理の徹底)	手帳(スクール手帳)を用いて、HR活動なども行われた事例もあった(制作して5年目)	○
			生活指導週間有効活用	「生活指導週間(年間7回)」を設け、例年同様に以下の段階的な事後指導を実施し、躰教育と問題生徒の早期発見・指導に努めた。事後指導条件をAとBに分け、教員からの報告が1件でもあがった生徒に対して迅速な指導をおこなった。	○
			学校全体の年間遅刻数を3500以下にする	年間遅刻数 3646名<昨年 3987・一昨年 6053>目標数を5000→3500として、目標達成するべく指導を行ったが、達成することはできなかった。しかし、昨年度よりも微減したことは一定の評価が得られたと考えられる。	○
			性教育の実施	各学年で性教育を実施した	○
			クラブ活動加入率向上への取り組みと練習環境の改善	4月実施の生徒自治会主催「生徒自治会オリエンテーション」にてクラブ説明会を実施、課外活動への参加を呼びかけた。またクラブ掲示板を制作し、各クラブからの情報発信の機会を設けることができた。	○
			課外活動の実績	硬式野球部大阪春季大会優勝 陸上競技部男子100mインターハイ/国体で上位入賞 スケートショートトラック世界大会での活躍 など、実績が報告された	◎
			国内修学旅行準備	学年修学旅行担当者を中心に立案、運営が進められ、昨年度第1回目の修学旅行よりも更に改善され、成功裏に終わった	○
			特別支援教育コーディネーター養成講座に教員1名が参加	4年間連続で養成講座への派遣を行った。情報も学内に適切にフィードバックされている	○
			保健委員会を中心に不登校生徒運用について議論が行われた	不登校生徒を支援しつつ、教室に戻れるような取組が議論され、次年度より内規が改訂されることになった	◎
			カウンセリング、不登校対策について	カウンセリング相談者数延べ人数は、331名(昨年度402名、一昨年度507名)で、対象生徒数は44名、対象保護者数は19名であった。	○

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎・評価 80%以上 ○・評価 60% △・評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 進路指導構想	<p>[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上</p> <p>(1) 三年間を通して計画的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。特に一年次を大切にし、総合的な学習ともリンクして流れのあるものとする。</p> <p>(2) 高大接続改革に対する対応を強化する。特に導入したポートフォリオなどの運用について、指導法等をまとめていく。</p> <p>(3) 文理進学コースでのカリキュラム改編に伴う問題を検証し、国公立大学および難関私立大学合格数を増やす取り組みを行う。</p> <p>(4) 就職や公務員試験受験を含め多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習と進路学習とのリンク ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入試センター試験受験奨励 ・『大学入学共通テスト』『eポートフォリオ』に対する研究、情報提供 ・英語民間試験に対するの研究と周知および指導 ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化 	<p>総合的な学習を利用して、3 か年間の進路学習を計画する</p>	<p>教務部の総合的な学習担当副部長が企画、立案、調整を行った</p>	○
	<p>[2] 系列大学との連携強化</p> <p>(1) 1 年次より系列大学のリテラシーの場を設けるなど、3 年間を通じて計画的な進路指導を行う。</p> <p>(2) デザイン美術コースを中心として、教員を招いての本校での授業や夏季休暇を利用した大学での授業等での連携強化を図る。</p> <p>(3) 3 年生対象に大阪商業大学での高大接続授業を実施する。新学習指導要領に伴うカリキュラム改編に向けて、継続の是非を検討する。</p>		◆進路実績向上への取り組み		
			センター試験受験者を昨年より増やす	センター試験出願数 60 名となり昨年度の 62 名より微減。データの分析を文理コース教員が中心に行い、2 名が国公立大学に合格した。難関私大（関関同立産近甲龍）への合格数は 18 名。その他デザイン美術コース生徒が推薦入試制度を使用し国公立大学に合格した	○
			『大学入学共通テスト』『eポートフォリオ』情報共有	昨年度に引き続き教務部と進路指導部が連携し、情報共有を行うことができた。	○
			英語民間試験に対しての研究・指導	本校は「新英検」をターゲットにし準備を進めてきたが、突然の延期となり、事後処理も含めて混乱を極めた	--
			系列大学への進学について	大阪商業大学 95 名 (21.3%) 昨年 19.2%	
		系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化	神戸芸術工科大学 8 名 (1.8%) 昨年 0.3%		
		就職希望者について	大阪商業大学に関しては、一昨年の定員厳格化の影響を受けたことが受験数増加への一番の理由だと思われるが、その他大学広報入試課による担任団への説明会実施など日頃の情報交換の結果とも言える。デザイン美術コースが神戸芸術工科大学と連携をとり、	○	
			『協力授業』（本校での授業）→3 回 『体験授業』（神戸芸術工科大学にて）→8 月に 3 日間連続を実施した。		
			18 人中、縁故関係で 1 名、一般企業が 17 名、と本校への求人票より選択する生徒が多かった。進路指導部を中心とした企業開拓等も効果が出ている。	○	

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 入試・渉外構想	<p>[1] 広報活動の強化</p> <p>(1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。</p> <p>(2) 東大阪、八尾、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。</p> <p>(3) 中学校への出前授業は継続して、積極的に引き受ける。</p> <p>(4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。</p> <p>(5) 学校案内(パンフレット)の業者を再選択した年度にあたるので、連携をしっかりと取り、本校のアピールしたい内容をしっかりと伝えることのできるものをつくる。</p> <p>(6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容を充実する。</p> <p>(7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。</p> <p>[2] 専願受験者の確保</p> <p>(1) コースコンセプトを明確にし、コース目標を達成するための教育活動をアピールすることで専願志願者増を目指す。</p> <p>(2) スポーツ専修コース 2 クラス 70 名以上の確保を目指し、スカウティングに注力する。また、魅力あるクラブとするため施設設備面での改善を進める。</p> <p>(3) 平成 29 年度に見直した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。</p> <p>(4) 競合する他校に対して最もディスプレイアドバンテージとなっている施設・設備面の改善と、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。</p> <p>[3] 女子生徒の確保</p> <p>(1) 志願者の 40%、入学者の 33% を目標に取り組む。</p> <p>(2) 明るいイメージの校舎、美しく充実したトイレや食堂など女子生徒に魅力的な学校を目指して改善すべき点を見出すとともに、改善に向けて努力していく。</p> <p>(3) 女子生徒に魅力あるクラブの増設を考え実行する。特に運動クラブの増設については施設面や指導者の確保の問題を考慮しつつ、喫緊の課題として検討し遂行する。女子柔道部については需要があり、最優先に考えていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る ・ 中学校への出前授業積極的受入れ ・ 学習塾への広報活動強化 ・ 教職員全体で行うオープンスクール、入試説明会 ・ 入試相談ウィーク ・ ホームページを用いた迅速な情報発信 	<p>オープンスクール 入試説明会 塾対象説明会 の参加数増加</p> <p>入試相談ウィーク の新設</p>	<p>＜オープンスクール＞ 第 1 回+第 2 回 861 組(昨年 589 名) 増 ＜入試説明会＞ 第 1 回～第 3 回 884 組 (昨年 765 名) 増 オープンスクール、入試説明会ともに大きく参加数を伸ばした。入試説明会については 1～2 回目は昨年度並みであったが、第 3 回目で大きく数字が伸びた。第 3 回目および 12 月に実施される「五ツ木模試」の数値が出願数に直結するデータと位置づけられるので、今後もこの数値に注視したい。 ＜塾対象説明会＞*H30 年度より 2 回実施 7 8 塾 (昨年 8 3 塾) 微減 2 回実施及び生徒の学習到達度に関する詳細な資料を配布したことが好評であった。 ＜入試相談ウィーク＞ 昨年より 1 日増やし (土曜を追加) 48 組が参加した。(昨年 33 組) 増 個別相談形式であるため、きめ細やかな説明ができるので、次年度以降もならに充実させ継続する予定である。 ＜塾訪問＞ 担当者が昨年度の 2 名から 1 名になったためのべ訪問塾数は 8 3 0 塾(昨年度は 1,111 塾)と減ったが、地元の東大阪市・八尾市などを中心に訪塾した。</p>	◎
		出前授業への対応	中学校への出前授業は 8 中学 21 講座 (昨年 7 中学 17 講座) 微増	◎	
		ホームページを用いた情報発信	企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した	◎	
		アスリート推薦スカウティングについて	アスリート推薦での受験 109 名 (昨年度 81 名) 増	◎	
		令和 2 年度入学試験の受験数	出願数 1371 名 (昨年 1237 名) 増 専願 386 名 (昨年 307 名) 増 併願 985 名 (昨年 930 名) 増 入学数 514 名 (昨年 428 名) 増 評定の基準(グローバル商大コースのみ)については引き続き中学校、塾からは指導しやすいとの意見をいただいた。	◎	
		女子生徒の確保のための取り組み	トイレ改修 (1 階、2 階) が実施され、使いやすくなったと評価を得ている。また有志の教職員、生徒たちで校舎内に花を育てるなど彩のあるキャンパス作りを行った。 入学生 514 名中女子 141 名(27.4%) 昨年度 29.2% 微減	○	

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ 教員 の研究 ・ 研修 構 想	<p>[1] 教員の教育力向上</p> <p>(1) 教員を指名しての公開授業(研究授業)を年次進行で継続実施する。</p> <p>(2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。</p> <p>(3) 特に注力したい分野についての外部研究会への積極的な参加を促し、参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。</p> <p>(4) 学校評価や授業評価を実施し、授業分析や授業改善の指針とする</p> <p>(5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場、教科教育力向上の場として活用する。</p> <p>[2] 教員組織の活性化</p> <p>(1) 教育目標を共通認識し、教員相互で助け合える組織へ改革する。特に年度当初に講師説明会を実施し、時間講師の先生方も同じスタンスで指導してもらうよう要請する。</p> <p>(2) 学校施策や行事を責任の所在を明確にした上で企画・運営していく体制づくりを行い、運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが、機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行い、PDCAサイクルを意識する。</p> <p>[3] 変革する教育への対応</p> <p>(1) 令和4年度から年次進行で実施される次期学習指導要領について、教務部を中心にカリキュラムを検討し、確定する。</p> <p>(2) 進路指導部を中心に、大学入試センター試験にかわる「大学入学共通テスト」(令和2年度実施予定)についての研究を行い、これを含めた高大接続改革に対する対応策を検討する。</p> <p>(3) ICT教育、アクティブラーニング、英語の4技能など新しい教育の方法論について、学び教科教育として取り入れていく。</p> <p>(4) 発達障害や不登校生について生徒理解を深めていくとともに、セルフエスティームを上げる、アンガーマネジメントやコーチングを行うといった手法について研究していく。</p> <p>(5) クラブ指導の在り方について、学校方針(学校長方針)を出せるよう検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の実施 ・ 授業アンケート等の活用 ・ 校内研修(教務部・保健委員会)の実施 ・ 外部研修会への積極的参加 ・ 教科会の充実 ・ 時間講師説明会の実施 ・ 次期学習指導要領への対応 ・ 大学入学共通テストの研究 ・ ICT教育充実に向けての準備 ・ クラブ指導の在り方についての議論 	授業公開の有効活用	4名の教員が授業公開を行った。新任を除き、一通りの教員が授業公開を行ったことになるので、次年度以降システムの再考も含み、継続して行っていくことになった	○
			授業アンケートの実施及びレポート提出	2学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。	○
			教育を取り巻く現在の状況の研修、教員の保健衛生の知見を高めるための研修などの実施	教務部主催で夏季教員全体研修会(70名・自己肯定感)・ミニ勉強会8回(48名・テレビ番組視聴)・ICT授業に関する研修会2回(39名)を実施した。また保健委員会より「支援を要する生徒の報告会」「CPR・AED研修会」「エビペン研修会」を実施、情報や知識の共有をすることができた	◎
			教科会議において学力の確認などを行う	学力テストの結果を踏まえて(国数英)各教科で学力分析、今後の課題などの確認を行う。単なる連絡会ではなく、教科学習の充実を討議する場になってきている	○
			時間講師説明会の実施	4月初旬に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施、理解を得た。	○
			新学習指導要領への対応	教務部と各コース・各教科が連携を取りながら、学校と各コースのコンセプトに沿ったカリキュラムを検討している	○
			大学入学共通テストの研究および対応	文理進学コースを中心に大学入学共通テストの研究と各教科での準備を進めている *英語民間試験(本校では「新英検」で対応予定であった)の延期については□進路指導構想にて前述	○
			ICT教育充実に向けての準備	管理職と情報科を中心として、ハード面の改善案のみならず、有効利用方法も含めて討議している。 なお、次年度に選択教室を「ICT教室」にリフォームすることが確認され、準備を進めている	◎
			外部研修会への参加	教科指導、生徒指導、大学入学共通テスト等の外部研修会に参加 また日本私学教育研究所主催の研修会にも各分掌等を代表して参加し、参加教員の知識向上だけでなく、情報の還元を行った。	◎

中間的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 〔 ◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×評価 20%以下 〕	
□ そ の 他	<p>[1] 保護者との連携強化</p> <p>(1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。</p> <p>(2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、一学期および二学期の年2回、クラスで三者面談を実施したり、一学期および二学期中間考査後に結果を郵送などで報告する。また、保護者対象に公開授業を実施し、学校・授業の様子を見ってもらう機会とする。</p> <p>(3) 谷学ネットやホームページを家庭との連絡の手段として活用する。</p> <p>(4) コース費用などの見直しを行い、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>[2] 地域との連携</p> <p>(1) クラブを中心に東大阪市民ふれあいまつりなど地域行事へ参加・協力をする。</p> <p>(2) 文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。</p> <p>(3) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。</p> <p>[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携</p> <p>(1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。</p> <p>(2) 運動会、避難訓練、夕涼み会など幼稚園行事へ協力する。また、互いの行事へ参加できる企画を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 谷学ネット（メール配信）の有効利用 ・ 中間試験結果の郵送 ・ 学校評価委員会の開催 ・ 保護者対象授業公開 ・ 大阪商業大学附属幼稚園との連携 	メール配信の有効利用	年度当初や、家庭連絡文の中に登録をお願いする文面を入れることで、多く登録していただいた。(全体で1000件を超える登録) 気象警報や各種行事の連絡など有効に活用している	◎
			中間試験結果の郵送	1学期・2学期の中間試験結果を各家庭に郵送、その他その時期毎の諸連絡も同封している。(保護者学校評価アンケートも同封)	○
			学校評価委員会	(今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために開催することができなかった)	---
			保護者対象の授業公開について	11月に期間を設けて行っているが、10名程度の参加のみ。実施方法に一考を要する	×
			大阪商業大学附属幼稚園との連携	<p>デザイン美術コース2年生が幼稚園との『協力授業』を行い、おもちゃ作りなどのプログラムを行った。</p> <p>今後、学校全体としての連携(行事を一緒に行うなど)を今後考えていくことで、充実を図ることができると考えられる。</p> <p>また幼稚園での屋外行事(運動会、夕涼み会など)本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。</p>	◎